



「私に取っての芝川さんは、単なる愛画家以上の慈悲深い大切な叔父様でありました。」
—坂本繁二郎



坂本繁二郎(愛流) 1917年 大泉美術館蔵

芝川コレクションの真髓

芝川は美術作品収集のきっかけは、石井柏亭との出会いから始まり、その後柏亭周辺の美術雑誌「方寸」に関係した石井鶴三、坂本繁二郎、森田恒友らの作品にもおよんでいきます。またこれらの若い画家たちがヨーロッパに留学する際にも、芝川は資金援助し、ただ作品収集だけにはしるコレクターとは異なり、将来ある画家たちに対しても、つねに温かい眼をもって接してました。唯一作者没後に手に入れたのが青木繁の作品ですが、青木の評価を決定づけた没後一周忌の展覧会の開催や、画集の発行(1913年)も芝川の資金的援助なくしては実現されませんでした。



石井柏亭(りんご) 制作年不詳 当館蔵

「芝川さん以外には到底芝川さんを想像することは出来ません。」
—木村荘八



芝川照吉と木村荘八 撮影年不詳



「画家をして何等束縛を感じしめようことゝ、君は実に絶好のパトロンであった。」
—石井柏亭



岸田劉生(S氏の肖像) 1914年 当館蔵

芝川照吉コレクション展 青木繁・岸田劉生らを支えたいコレクター

京都国立近代美術館は昨年度、大阪で毛織物貿易を営む芝川商店にいた芝川照吉(1871-1923)収集によるコレクション180点を一括収蔵いたしました。このたびこの貴重な収蔵を記念して「芝川コレクション展」を開催いたします。コレクションには、青木繁、岸田劉生、坂本繁二郎、石井柏亭らの絵画に加え、藤井達吉や富本憲吉、バーナード・リーチらの工芸作品も含まれ、「幻のコレクション」として近代美術史上高い評価を得ています。



藤井達吉をはじめとする工芸品も充実

「芝川コレクション」の中でも、とりわけ藤井達吉の作品点数は突出し、岸田劉生にも匹敵するほど、芝川は藤井を高く評価していました。しかも代表作のほとんどが集められていたといえます。藤井は、劉生らのフェウザン会に唯一工芸家として参加していました。このように芝川は、藤井のみならず、富本憲吉やバーナード・リーチ、河合卯之助らの工芸家も支援するという個性豊かなパトロンでありました。そして入手した器や調度品を実際に日常生活に、自らの住居に飾るといって「生活美術」の視点で、これらの工芸品に接していたことも見逃せないのでしよう。

若くは岸田劉生のパトロン

特筆すべきは岸田劉生の場合で、劉生日記には、麗子の次に志賀直哉とともに芝川の名が数多く登場しています。劉生も一時は精神的にも経済的にも困窮していたときに、その才能を認め、支援し続けたのも芝川でした。そしてコレクションでもっとも重要な作品が、劉生を中心とする草土社の作品だといわれています。芝川は劉生の作品を40点所有していたようで、その中には東京国立近代美術館が所蔵する重要文化財(道路と土手と塀(切通之写生))(1915年)も含まれていました。劉生を中心に、木村荘八、清宮彬、椿田雄らのメンバーたちを支援し、展覧会の開催をはじめ、当初はまったく評価されなかった草土社を支え続けたのも芝川だったのです。



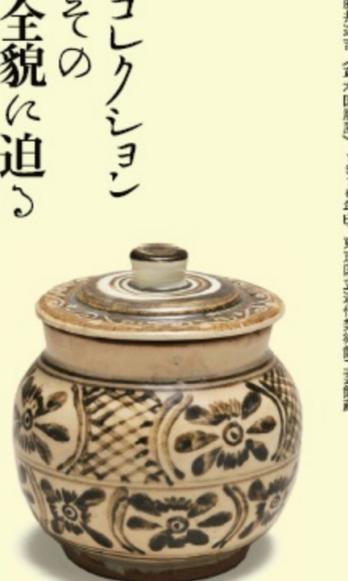
藤井達吉(松樹回廊) 1916年頃 当館蔵



「芝川さんのなくつた事を思えば、淋しい。私の恩人。なつわしい父の様々人。」
—岸田劉生



藤井達吉(草木回廊) 1916年頃 東京国立近代美術館蔵



バーナード・リーチ(染付たて文様壺) 1917年 当館蔵

そのコレクション全貌に迫る

「芝川コレクション」はこれまでも高い評価が与えられ、2005年に東京の渋谷区立松濤美術館で「幻想のコレクション 芝川照吉展」が開かれたことがあります。芝川のコレクターとしての眼、そして自ら認めた若い作家たちを支援していく姿勢には、個人美術館の館長の役割のよきな明確な理念が脈打っています。今日芝川コレクションの全貌を正確に把握することはできませんが、総点数は1000点にのぼるといわれています。しかし芝川没後は、関東大震災や2度の売立てによって、残念ながらその多くは失われたにもかかわらず、太平洋戦争の戦禍などにも耐え、200点ほどが遺族の手元に残されていたのです。今回の展覧会では芝川照吉の人もスポットをあて、コレクションの中心である岸田劉生や青木繁の名作も合わせた決定版となります。



「関連イベント」

6月1日(土) 午後2時〜午後3時30分
演題「芝川照吉と藤井達吉」
講師 木本文平氏(前南市藤井達吉現代美術館館長)
6月22日(土) 午後2時〜午後3時30分
演題「芝川照吉をめぐる洋画家たち」(仮題)
講師 瀬尾典昭氏(谷谷区立松濤美術館学芸員)

【NFC所蔵作品選】
MoMAK Films 2013
共催：東京国立近代美術館フィルムセンター
6月15日(土)・16日(日) 午後2時より
【美術と映画(映画美術)】
『天井桟敷の人々』(1945年)
『ピカソ「天才の秘密」』(1956年)ほか
いずれも当館1階講堂にて、先着100席1プログラム500円
※詳細はホームページおよび上映プログラムをご覧ください。

「美術に接するといふ事、画家と会話するといふことだけが氏の趣味だったと思ひます。」
—森田恒友

【観覧料】
一般 1200(1000)円、大学生 800(600)円、高校生 400(200)円 ※(内は前売り、20名以上の団体料金)
※中学生以下、心身に障がいのある方と付添者1名は無料(入館の際に証明できるものをご提示ください)
※お得な前売券は、4月1日から5月17日までの期間限定発売。前売券の主な発売場所：チケットぴあ(コード765672)、ローソンチケット(コード5705)ほか主要プレイガイド、コンビニエンスストアなど

【交通案内】
●JR・近鉄京都駅前(A1のりば)から市バス5番 岩倉行「京都府会館美術館前」下車すぐ
●JR・近鉄京都駅前(D1のりば)から市バス100番(急行)銀閣寺行「京都府会館美術館前」下車すぐ
●阪急烏丸駅・河原町駅・京阪三条駅から市バス5番 岩倉行「京都府会館美術館前」下車すぐ
●阪急烏丸駅・河原町駅・京阪三条駅から市バス46番 平安神宮行「京都府会館美術館前」下車徒歩約5分
●地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分

【駐車場】
同館併設の駐車場(地下)をご利用の有料入館者は、駐車場の割引(1台1名)を受けられますので駐車券をお持ちの上お越しください。